

# 津ライスニュース

## 令和6年産水稻 作柄報告(速報版)

令和6年10月28日

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

令和6年産水稻の作柄  
作況指数は三重県98、中勢98の「やや不良」

### 生育経過

#### <早期栽培の概要>

育苗期間中は気温が高い日があり、一部でヤケ、ムレ、立ち枯れ病等が見られましたが、全般に育苗は良好でした。

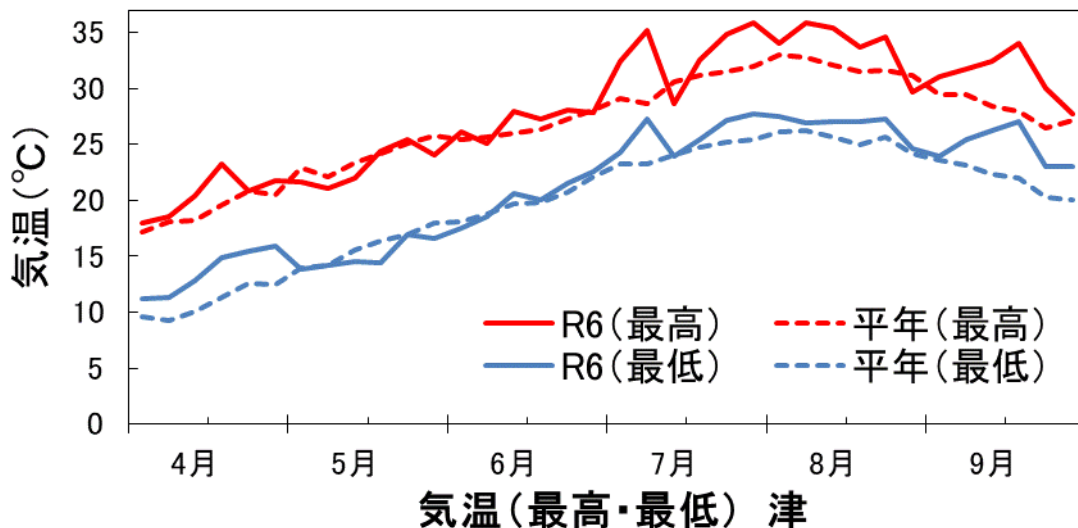
移植作業は4月第4半旬から5月第1半旬が中心となりましたが、まとまった降雨があり、一部で作業の遅れが見られました。5月は平年よりも気温が低く推移し、曇りや雨の日が多く日照時間が少なく推移したことから、初期の生育が遅れ、分けつは少ない状況となりました。6月第3半旬から気温が高くなり、生育は回復しましたが、生育期間を通して茎数は少ない状況となりました。出穂期は4月末植えで7月18日頃となり、平年並み～2日程度早い状況となりました。出穂期となる7月第4半旬から気温がかなり高く、7月下旬から8月下旬にかけて降雨がかなり少なくなったため、高温不稔、白未熟粒が見られ、登熟は悪い傾向となりました。

なお、普通期となる5月中旬以降の移植では、出穂が8月上旬となりましたが、8月は気温はかなり高温で推移し、降雨が少なかったため、一部地域で不稔や登熟不良が見られ、品質、収量が低くなりました。

### 気象経過

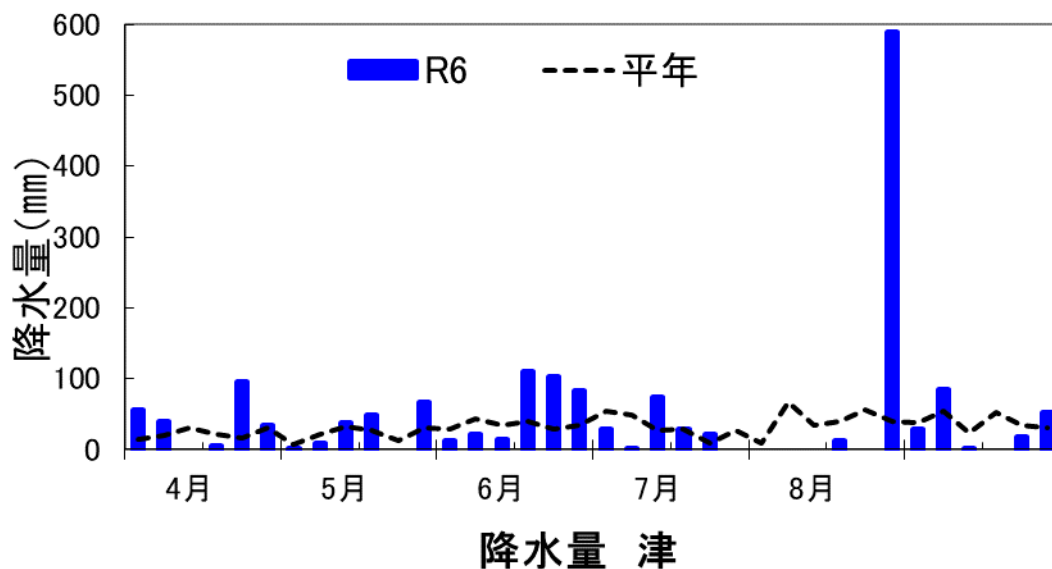
#### <気温>

4月中旬までは気温が高く推移しましたが、4月下旬から6月上旬までは概ね平年よりも気温が低く推移しました。6月下旬以降はかなり気温が高くなり、7月中旬、8月下旬で気温が低く推移しましたが、9月まで気温は高く推移しました。



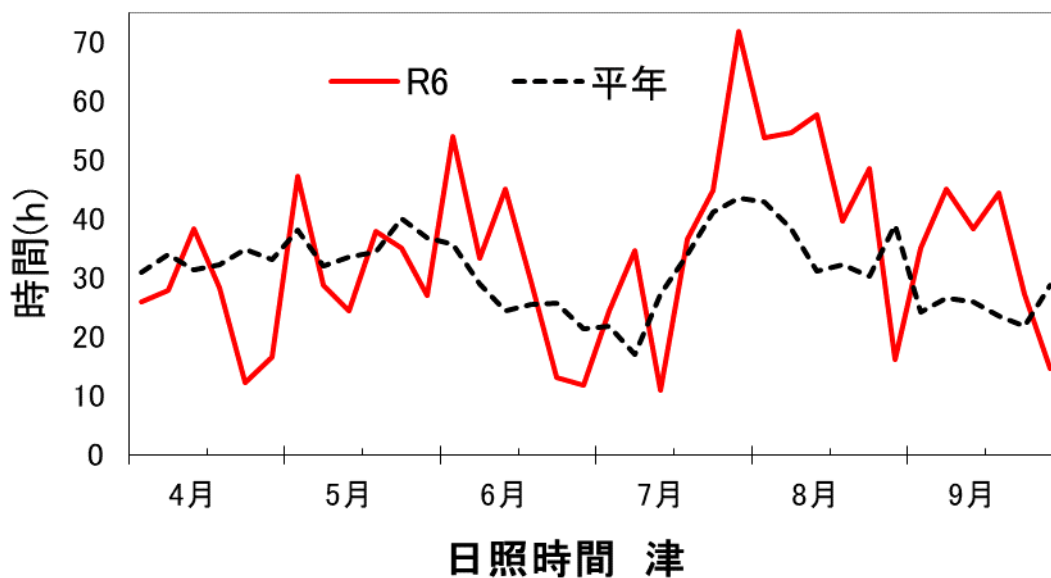
### <降水量>

4月下旬にはまとまった降雨がありました。6月上旬は降水量は少なく推移しましたが、6月中旬から下旬にかけて降水量は多くなりました。7月上旬は降雨が少なくなりましたが、中旬にはまとまった降雨がありました。7月下旬から8月下旬は降雨はかなり少なくなりました。8月末は台風の影響もありかなり降水量が多くなりました。



### <日照時間>

5月は曇りや雨の日が多かったことから日照時間は少なくなりました。6月中旬までは日照は多く推移しましたが、6月下旬から7月中旬までは概ね日照時間は少なくなりました。7月下旬以降はかなり日照時間が多くなりました。



## 病虫害の発生状況

### <発生の概況>

6月中旬から下旬にかけて雨や曇りの日が多くなったことから、中山間地域等で葉いもちの発生が確認されましたが、7月上旬には天候も安定し、大きな被害は見られませんでした。ただし、箱施用剤や防除を行っていないところでは発生が目立つほ場が見られました。7月中旬に、再び降雨が多くなり、葉いもちの発生が見られましたが、気温が高く推移し、7月中旬以降は降雨が少なかったため、穂いもちへの移行は少なく、収量に大きな影響はありませんでした。その他の病害については、大きな被害が出るような発生はありませんでした。

カメムシ類については、イネカメムシ、ホソハリカメムシの発生が早くから目立ち、7月頃から増加しました。また、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシについても、7月から発生が見られ、8月以降に発生が多くなりました。適期に防除ができなかったほ場では、被害が大きくなりました。

飛来性害虫であるトビイロウンカが確認されるなど、被害が心配されましたが、大きな影響はありませんでした。

## 生育基準田等の調査結果

### <成熟期調査結果>

本年の生育基準田の調査結果を過去のデータと比較すると、稈長はやや短く、㎡当たりの穂数は少なくなっています。

また、農業研究所(嬉野)の作況試験田データを平年値(過去10か年の平均)と比較すると、稈長はやや長く、穂数は概ね平年並みとなりました。

### ○R6水稲生育基準田の調査結果

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/㎡)	(本/株)	
コシヒカリ	安東	4月28日	87.9	19.2	320.0	24.0	7月16日
	安濃	4月27日	82.1	19.3	306.3	18.8	7月16日
	白山	4月29日	91.3	19.2	350.0	20.3	7月22日

### ○水稲生育基準田の調査結果(過去の調査データの平均値)

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/㎡)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月14日	84.8	19.4	363.0	23.6	7月14日
	安濃	4月26日	89.8	18.7	318.5	19.6	7月20日
	白山	4月29日	91.4	18.7	314.6	18.6	7月22日

※R1～R5の平均値

### ○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

品種	年度	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	出穂期
コシヒカリ	R6	4月24日	87.1	20.9	407	7月12日
	平年値(H26～R5)	4月25日	86	19	409	7月13日

### <収量調査結果>

R6年の生育基準田の収量調査結果は過去の平均と比較すると、精玄米重、千粒重は小さくなりました。本年産は、5月上旬から下旬にかけての低温、日照不足により初期分げつが少なくなったため、穂数も少なくなったことや、登熟期となる7月以降の気温が高温で推移したため、登熟が悪くなったことが要因と考えられます。

#### ○R6生育基準田の収量調査結果

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	安東	733.3	498.1	14.0	21.7
	安濃	633.3	432.2	15.0	20.5
	白山	763.6	451.6	20.2	20.9

#### ○生育基準田の収量調査結果（過去の調査データの平均）

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	519.1	491.6	29.1	21.4
	安濃	597.5	450.3	15.3	21.8
	白山	625.7	488.2	17.3	22.2

※R1~R5の平均値

### <次年度に向けて>

#### ○土づくり

気候変動により、猛暑や日照不足など異常気象の年が多くなっています。このような条件下で水稻を安定的に生産するためには、根を丈夫に張らせ、土壌に必要な養分がバランスよく含まれていることが必要です。稲わらのすき込みや有機物の施用を行うとともに土壌診断を活用し、ケイ酸などの不足する養分を補うなどして、土づくりに取り組みましょう。

#### ○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生が多かったほ場では、土壌が乾燥して硬い時期に、低速で土壌を細かく砕くように耕起を行い、貝を物理的に破砕するとともに冬の寒さにさらして殺菌しましょう。

#### ○病虫害防除

いもち病については、収量に大きく影響する病害であり、まずは葉いもちの発生を抑えて穂いもちへの移行を防ぐことが肝要です。箱施用剤の使用など、予防を中心とした適期防除を心がけましょう。

本年産では、カメムシ類の発生が多く、被害も多くなりました。近年は暖冬傾向が続いているため、カメムシ類が越冬しやすい環境にあり、今後も多発が懸念されます。不稔籾の発生や斑点米により収量、品質の低下要因となります。ほ場周囲の荒廃地対策や草刈り、穂揃い期以降の地域一斉防除などを組み合わせて、カメムシ類の被害を防ぎましょう。

### ○適切な水管理

田面が均平でないと、移植後の水管理や除草剤の効果が不安定となります。このため、耕起や代掻き時に均平を確保するようにしましょう。

活着後は、できるだけ浅水管理(2～3cm)にして日中の水温確保に努め、分げつの発生を促しましょう。本年度のように5月から6月に天候がすぐれない場合は特に初期の水管理に注意が必要です。

水を溜めっぱなしにすると、土中の酸素が不足することによって、根が弱り、下葉の黄化や枯れ上がりが進みます。中干しまでに間がある場合は、一旦軽く干して再度入水しましょう。

中干しは、生育状況に応じて開始時期を調整しましょう。1株20本程度の茎数が目安です。土壌表面に小さい亀裂が入れば中干し終了です。中干し後は、こまめな間断かん水を行い、土壌に適度な水分と酸素を供給し、根の健全化に努めましょう。

落水時期は収穫作業に支障が出ない程度(収穫7日前以降)に遅らせ、後半まで適度な土壌水分を保持して収量・品質の低下を防止しましょう。